

学校法人二階堂学園内部統制システム整備の基本方針（令和 7 年 程）

令和 7 年 2 月 25 日制定

改正 令和 8 年 6 月 17 日

学校法人二階堂学園（以下「学園」という。）は、令和 7 年 2 月 25 日、理事会において、私立学校法改正第 36 条第 3 項第 5 号、第 148 条及び同施行規則改正案第 13 条に基づき、理事の職務執行が法令・寄附行為に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、学園の基本方針を以下のとおり決定した。

1 経営に関する管理体制

（１）理事会は、定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令・寄附行為に従い、必要な事項については評議員会の意見を聴いたうえで、業務執行上の重要事項を審議・決定するとともに、理事の職務を監督する。

（２）寄附行為並びに「理事会運営規程」及び「評議員会運営規程」に基づき、理事会及び評議員会の役割、権限及び体制を明確にし、適切な理事会及び評議員会の運営を行う。

（３）常任理事会規程に基づき、業務執行の迅速化と円滑性を図るため、理事会の委任を受けて、学園の日常業務における軽微な執行の内容及び方法等について審議する。

（４）「理事の職務及び決裁権限規程」に基づき、業務を執行する理事の担当業務を明確化し、事業運営の適切かつ迅速な推進を図る。

（５）職務分掌・決裁権限を明確にし、理事、職員等の職務執行の適正性を確保するとともに、機動的な業務執行と有効性・効率性を高める。

（６）理事会、評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、寄附行為及び「文書管理規程」に基づき、適切に作成、保存管理する。

（７）業務執行機関からの独立性を有する内部監査室を設置し、業務の適正及び効率性を確保するため、業務を執行する各部の職務執行状況等を定期的に監査する。

2 リスク管理に関する体制

（１）リスク管理に関し、体制及び「危機管理規程」を変更し、役割権限、リスクの評価方法、リスク対応方法等を明確にする。

（２）「学生、教職員個人情報保護」に関する諸規定に基づき、個人情報の保護と適切な管理を行う。

（３）事業活動に関するリスクについては、法令及び学園の規程等に基づき、職務執行部所が自律的に管理することを基本とする。

（４）リスクの統括管理については、リスク管理委員会が一元的に行い、内部監査室は重要リスクが漏れなく適切に管理されているかを適宜監査し、その結果についてリスク管理委

員会を通じて業務を執行する理事及び理事会に報告する。

(5) 学園の経営に重大な影響を及ぼす恐れのある重要リスクについては、理事会で審議し、必要に応じて対策等の必要な事項を決定する。

(6) 災害、事故その他の緊急時に備え、対応組織や情報連絡体制等について規程等を定めるとともに、継続的な教育と定期的な訓練を実施する。

(7) 研究活動について、内部牽制機能による研究費の適正経理、研究不正の防止及び知的財産の保護を確保するため、規程等を定めるとともに、必要な措置を講じる。

(8) 理事会は、毎年、業務執行に関するリスクを特定し、見直すとともに、リスク管理体制についても見直しを行う。

3 コンプライアンスに関する管理体制

(1) 理事及び職員が法令並びに寄附行為及び学園の規程を遵守し、確固たる倫理観をもって事業活動等を行う組織風土を高めるために、「コンプライアンス推進規程」を定める。

(2) 学園のすべての役職員のコンプライアンス意識の醸成と定着を推進するため、不正防止等に関わる役職員への教育及び法令遵守マニュアルに基づき啓発活動を継続して実施、周知徹底を図る。

(3) 学園の内外から匿名相談できる通報窓口を常設して、不正の未然防止を図るとともに、速やかな調査と是正を行う体制を推進する。通報窓口又は監事に対しコンプライアンスに関する相談又は違反に係る通報をしたことを理由に、不利益な取扱いを行わない。

(4) 内部監査室は、職員等の職務執行状況について、コンプライアンスの観点から監査し、その結果を理事会に報告する。理事等は、当該監査結果を踏まえ、所要の改善を図る。

(5) 法令・寄附行為違反等の行為が発見された場合には、「コンプライアンス推進規程」に従って、理事会において迅速に状況を把握するとともに、外部専門家と協力しながら適正に対応する。

4 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）

(1) 監事は、「監事監査規程」に基づき、公平不偏の立場で監事監査を行う。

(2) 監事は、理事会、評議員会等の重要会議への出席並びに重要書類の閲覧、審査及び質問を通して、理事等の職務執行についての適法性、妥当性に関する監査を行う。

(3) 監事は、理事会が決定する内部統制システムの整備について、その決議及び決定方法の適正性について監査を行う。

(4) 監事は、重要な書類及び情報について、その整備・保存・管理及び開示の状況など、情報保存管理体制及び情報開示体制の監査を行う。

(5) 監事の職務を補助する体制として、監事監査規程第25条に基づき監事の求めに応じ、内部監査室がこれを行う。

(6) 内部監査室長等は、監事の指揮命令下で業務を行い、監事以外からの指揮命令を受け

ないものとし、当該室長等の異動、人事評価及び懲戒等については、監事の意見を尊重する。

(7) 理事長は、監事が必要と認めた場合には、内部監査室長等が理事会、評議員会その他の重要会議へ出席することを認めるものとする。

(8) 理事又は職員等は、学園に著しい損害を与えるおそれのある事実又は法令、寄附行為その他の規程等に反する行為等を発見したときは、直ちに理事長、業務執行理事並びに内部監査室を通じて監事に報告する。

(9) 理事及び職員等は、職務執行状況等について、監事が報告を求めた場合には、速やかにこれに応じる。

(10) 理事長は、定期的に監事と会合を持つなどにより、業務の執行と活動の健全な発展に向けて意見交換を図り、相互認識を深める。

(11) 監事はその職務の執行について生ずる費用の前払い若しくは支出した費用の償還又は負担した債務の弁済を請求した場合には、速やかに相当額を支払う。

5 本方針の改廃

本方針に見直しの必要性が生じた場合は、理事会の決議により改正するものとする。

附 則

この基本方針は、令和7年4月1日から施行する。

附 則

この基本方針は、令和8年6月17日から施行し、令和8年4月1日から適用する。